

# 伊都キャンパスの生活状況等に関するアンケート結果の概要

令和4年3月

九州大学キャンパス計画室

福利厚生施設WG

## 1. 調査の目的

伊都キャンパスに通学している学生の生活状況等に関する調査を毎年度実施し、学生の生活状況等の現状や経年変化を把握することを目的とする。その結果をもとにして、キャンパス内における学生生活支援施設の運営や周辺地域における生活利便施設の立地促進・交通利便性の向上に取り組む。

## 2. 調査対象

伊都キャンパスに通学する学生 約14,000名

- ・学部1年生
- ・共創学部、文学部、教育学部、法学部、経済学部、理学部、工学部、農学部及び21世紀プログラム課程の2年次以上の学生
- ・人文科学府、比較社会文化学府、地球社会統合科学府、人間環境学府、法学府、経済学府、理学府、数理学府、システム生命科学府、工学府、システム情報科学府、生物資源環境科学府及び統合新領域学府の大学院生

## 3. 調査期間

令和3年12月1日～令和4年1月14日

## 4. 調査方法

学生ポータルシステム、掲示等にてアンケートの周知・協力依頼を行い、対象学生自身が九州大学eラーニングシステム(moodle)にアクセスし、Web上で回答

## 5. 回答結果 ※括弧内は前回(令和2年度)の数値

- (1) 回答数 763人 回答率5.5% (4.4%)
- (2) 回答者属性
- |      |              |
|------|--------------|
| 学年   |              |
| 学部学生 | 650人 (85.2%) |
| 修士課程 | 85人 (11.1%)  |
| 博士課程 | 24人 (3.1%)   |
| その他  | 4人 (0.5%)    |
- 性別
- |    |              |
|----|--------------|
| 男性 | 481名 (63.0%) |
| 女性 | 265名 (34.7%) |
- 回答しない 17名 (2.2%)

## 6. アンケート回答結果の概要 ※括弧内は前回（令和2年度）の数値

### （1）通学について

- ① 通常時の通学方法は、自転車が1番多く38.7%（42.2%）、次いで徒歩のみ15.7%（12.3%）、バイク11.3%（8.8%）の順となっており、昭和バスのみの割合が7.3%（10.0%）と減少している。自転車、徒歩のみ、バイク、昭和バスのみのキャンパス周辺に住んでいると考えられる通学方法の割合は、73.0%（73.2%）となっており、昨年度と変わらない結果となった。

雨天時の通学方法は、徒歩のみが一番多く24.8%（22.1%）、次いで昭和バスのみ24.6%（29.2%）、西鉄バス11.1%（8.7%）の順となっており、昭和バスのみの割合が減少し、徒歩のみ、自転車、バイクなどの割合が増加している結果となった。

通学にバスを利用する割合は、通常時26.1%（30.7%）、雨天時46.4%（55.2%）ともに昨年度より減少している。

#### ■通常時の通学方法

通学手段	回答数	割合		差
		R3年度	R2年度	
地下鉄+JR筑肥線+昭和バス	51	6.7%	8.8%	-2.1%
JR筑肥線+昭和バス	12	1.6%	3.6%	-2.0%
JR筑肥線+自転車	9	1.2%	0.8%	0.4%
昭和バスのみ	56	7.3%	10.0%	-2.6%
西鉄バス	76	10.0%	7.5%	2.4%
糸島市コミュニティバス	4	0.5%	0.8%	-0.3%
自家用車	30	3.9%	3.8%	0.2%
バイク	86	11.3%	8.8%	2.4%
自転車	295	38.7%	42.2%	-3.5%
徒歩のみ	120	15.7%	12.3%	3.5%
その他	24	3.1%	1.5%	1.7%
合計	763	100.0%	100.0%	0.0%
バス通学		26.1%	30.7%	

- ② 通学利便性を向上させる対策としては、「平日におけるバスの増便等の充実19.6%（17.2%）」が一番多く、次いで「鉄軌道系の導入17.9%（19.6%）」、「夜遅くまでのバス運行12.8%（13.1%）」、「土日祝日におけるバスの増便等の充実11.0%（12.5%）」となっており、バス利便性の向上を重視する回答が最も多くなっている。

- ③ 平均的な登校時間帯は、1限目開始（8:40）前が32.8%（24.3%）、2限目開始（10:30）前が47.8%（27.3%）であり、2時限目開始前までに登校している学生は約80%（約50%）と増加しており、3限目開始（13:00）前が14.2%（27.5%）と減少している。平均的な下校時間帯は、4限目終了後である16:20～17:00が最も多く33.2%（24.5%）、その他はサークル活動や研究・実験終了後の17:00～22:00の間で分散している。

登校日数は、約4回/週間（約2.7回/週間）と増加しており、全く登校していないと回

答した学生は約2%（約10%）と減少している。

## （２）住居について

- ① 現住所は、元浜・九大新町16.8%（15.4%）とドミトリー・協奏館7.9%（8.3%）を合わせるとキャンパス近隣に住んでいる学生が24.7%（23.7%）で最も多くなった。次いで、九大学研都市駅周辺18.6%（18.8%）、周船寺駅周辺11.9%（10.9%）、糸島市泊5.8%（3.6%）泉・富士見・田尻5.1%（7.5%）となっており、これらの地域を含む糸島半島内に住んでいる学生は75.8%（75.2%）と増加しており、キャンパス周辺への居住が進展している結果となった。

### ■エリア別居住率

エリア	回答数	割合		差
		R3年度	R2年度	
福岡市東区	24	3.1%	3.8%	-0.6%
福岡市博多区	18	2.4%	1.3%	1.1%
福岡市中央区	18	2.4%	2.8%	-0.4%
福岡市南区	16	2.1%	1.6%	0.5%
福岡市城南区	8	1.0%	1.0%	0.1%
福岡市早良区	28	3.7%	3.8%	-0.1%
福岡市西区東部(筑肥線姪浜～下山門)	17	2.2%	5.1%	-2.8%
福岡市西区今宿駅周辺	11	1.4%	2.3%	-0.8%
福岡市西区九大学研都市駅周辺	142	18.6%	18.8%	-0.2%
福岡市西区周船寺駅周辺	91	11.9%	10.9%	1.0%
福岡市西区横浜	10	1.3%	0.8%	0.5%
福岡市西区泉・富士見・田尻	39	5.1%	7.5%	-2.4%
福岡市西区元浜・九大新町	128	16.8%	15.4%	1.4%
ドミトリー・協奏館	60	7.9%	8.3%	-0.5%
福岡市西区その他	21	2.8%	1.1%	1.6%
糸島市泊	44	5.8%	3.6%	2.2%
糸島市波多江駅周辺	19	2.5%	4.2%	-1.8%
糸島市糸島高校前駅周辺	1	0.1%	0.5%	-0.4%
糸島市筑前前原駅周辺	6	0.8%	0.7%	0.1%
糸島市その他	6	0.8%	1.0%	-0.2%
その他(福岡市外・糸島市外)	56	7.3%	5.6%	1.8%
合計	763	100.0%	100.0%	0.0%
糸島半島		75.8%	75.2%	

- ② アパート・マンションの決定にあたっては、家賃15.0%（15.4%）が一番多く、次いで、大学からの距離13.5%（13.0%）、インターネット設備10.8%（11.0%）を重視する回答が多く、次いで、バス・トイレの別9.8%（10.6%）、広さ8.7%（8.2%）と続き、昨年度と変わらない結果となった。
- ③ 自宅周辺に必要な施設としては、スーパー17.6%（15.7%）が一番多く、次いで、飲食店12.2%（12.9%）、書店11.6%（12.5%）、娯楽施設11.5%（11.0%）と続き、生活面での利便性とまちの賑わいが重視されている。キャンパス近隣に住んでいる学生は、スーパーや飲食店の割合が多く、九大学研都市駅や周船寺駅周辺では、書店や娯楽施設の

割合が多くなっている。

- ④ 居住地の周辺環境については、半数以上の57.1% (53.9%) が満足しており、理由としては、スーパー・コンビニの近さ、交通の便、生活利便施設が多い、大学に近いなどがあげられている。

### (3) キャンパスでの生活について

- ① 伊都キャンパスとその周辺の施設に「非常に満足している」及び「満足している」の割合が27.1% (25.5%) であり、キャンパス整備や周辺まちづくりの進展により、満足度が高まっているものの、依然として、「不満である」及び「非常に不満である」の割合の方が41.5% (42.9%) と多くなっている。
- ② キャンパス内に必要な施設については、「休憩したり友人達と談笑できる場所」が29.7% (28.9%) が最も多く、次いで「気軽に体を動かせる場所」が20.3% (20.3%)、「大人数で集まれる場所」が16.0% (15.3%) であった。
- ③ キャンパス周辺に必要な施設については、「スーパー」が20.7% (19.7%) と最も多く、次いで「飲食店」が16.3% (15.7%)、「娯楽施設」が12.6% (10.7%) であった。
- ④ 課外活動の場所は、伊都キャンパス及び周辺が50.6% (47.8%) で最も多く、部活やサークルに所属していない割合34.0% (36.8) は少し減少している。
- また、アルバイトの場所は、福岡市西区が24.6 (23.9) が最も多く、福岡市中央区及び博多区が12.5% (13.1%)、伊都キャンパス内が4.7% (4.3%) であり、アルバイトをしていない割合が37.8% (38.2%) となった。

### (4) その他の意見（自由記載欄）について

- ① 記載された全ての意見を「交通」「学内施設」「周辺環境」「その他」に分類した結果、「交通」が48.1%、「学内施設」が25.5%、「周辺環境」が25.8%、「その他」が0.6%であった。
- ② 「交通」については、運賃を安くしてほしいという意見が最も多く、次いでバスの本数を増やしてほしいという意見が多かった。
- 「学内施設」については、駐車場・駐輪場を充実してほしいという意見が最も多く、次いで売店・コンビニや飲食店（食堂等）の拡充や営業時間に関する意見が多かった。「周辺環境」については、伊都キャンパスの近くにスーパーを誘致してほしい等

の意見が最も多かった。

自由記入欄には、234名（回答者の31%）の学生からたくさんの意見をいただきました。伊都キャンパスでの学生生活がより良いものになるように、いただいた意見をしっかりと受け止めて、今後の取組みに活用したいと思います。

交通については、バスの運賃や運行本数等に関する意見が多くみられました。今年度はコロナ禍でバス利用者が大幅に減少するなど、昭和バスや西鉄バスが厳しい経営状況であることを踏まえ、路線の維持確保を図るため、需要に合わせたダイヤでの運行を行っております。引き続き利用状況の変化に応じて、各事業者と協議を行いながら、適切な輸送力の確保に努めてまいります。

バスや鉄道など公共交通を主軸とし、多様な交通手段が相互に連携した交通ネットワークが必要であると考えており、AIなど新たな技術やサービスを活用し、交通に関する事業者と連携しながら、交通環境の改善に向けて取り組んでまいります。

学内施設については、売店・コンビニ、飲食店の充実を求める意見がみられましたので、いただいた意見を踏まえ、学内施設の充実に向けて検討して参ります。

周辺環境については、昨年度に引き続き、伊都キャンパスの近くにスーパーを誘致してほしいとの意見を多くいただきました。キャンパス周辺の関連団体とのまちづくりの取組みを通じて、スーパーの立地要望を伝えるなどの取組みを進めてまいります。